

サクラの育て方

サクラってどんな木

サクラは春に桃色のきれいな花をさかせます。
花は木全体にさいて美しいため、各地の公園に植えられています。
秋には葉が赤くなります。



サクラの花



サクラの木

サクラの種

サクラは花のさいた後に丸い実をつけます。
実の中にはサクラの種が1個入っています。












サクラの実



実の中に入っている種

種から苗木を作るための作業スケジュール

1 年 目		
6 ~ 7月	7 ~ 9月	9 ~ 10月
種集め	種 <small>の</small> 保存	種まき
		
2 年 目		
5月 (芽 <small>が</small> 出る)	6 ~ 9月 草取り	10月 ほりとり 仮植え
		
3 年 目		
4月 植えかえ	6 ~ 9月 草取り	10月 ほりとり、仮植え
		
4 年 目		
4 ~ 5月		
目的とする場所へ植える またはもっと大きく育てるために床(畑)に植えかえる		

1年目にすること

1 種集め～サクラの実を採る～



枝に着いているものを採ったり、下に落ちているものを拾う。
 できるだけ枝に着いている実を採る。
 集めるのは黒くて丸い部分
 集める実の数の目安
 種をまく場所の広さ、1平方メートル(1m×1m)当たり
 250～300粒位。



[用意するもの]
 手ぶくろ、エプロン
 ビニールぶくろ、またはバケツ

枝から採るサクラの実 採らないサクラの実

集める実は、黒くてやわらかくなったもの。
 赤や黄色の実はかたくて、中に入っている種をうまく取り出すことができないので、黒くなるまで待つこと。



黒くてやわらかい実



赤くてかたい実

拾ってはいけないサクラの実



木の枝に赤い実がいっぱいついているときは拾わない
 (まだ、熟していない実が落ちているため)
 しわがよって、かわいている実は拾わない。
 穴があいている実は拾わない。
 (種が虫に食べられているため)

サクラの実を採る場所

実を集めるときは、サクラの木が数本以上ある場所で行うこと。
 サクラの木が1本しかない場所では、実がつきにくく、種も芽が出てこない場合がある。



集めたサクラの実は・・・

集めた実は、すぐに中の種を取り出す。
 すぐに種を出すことができない場合は、ビニールぶくろに入れて冷蔵庫(れいぞうこ)で保存する。
 保存した実は、1週間以内に種を取り出すこと。

1年目にすること
2 種集め～種を実の中から取り出し保存

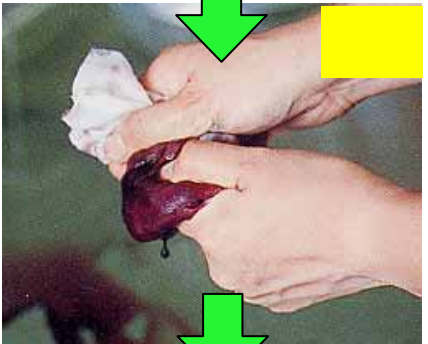


サクラの種は、実の中に入ったままでは芽を出すことができない。実についている皮や果肉（かにく）を洗い流して、種だけにする。種をまく時まで、冷蔵庫（れいぞうこ）で保存する。

[用意するもの]
布ふくろまたは布、水の入る入れ物、水切りネット、新聞紙などの紙、ビニールふくろ



サクラの実を布のふくろに入れる。ふくろがないときは、布で実をつつむ。



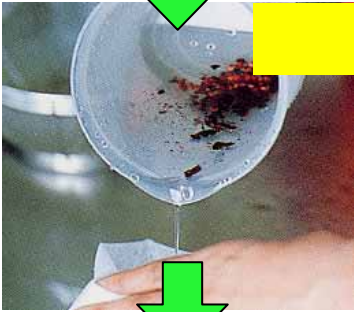
布の中の実を手でもみつぶし、皮と種を分ける。出てきた果汁（かじゅう）は、水で洗い流す。



よくもんだ実と種を、入れ物に入った水に入れ、かきまぜる。



水にういた皮と果肉を、水といっしょに流す。流すときは細かいあみめのネットを使い、皮や果肉が排水溝（はいすいこう）に入らないようにする。皮やゴミが多いときは、の作業をくりかえす。



水にういた種は皮などといっしょに流す。入れ物の底に残っているきれいになった種は、紙にのせて軽くかわかす。（24時間ほど）。かわいた種は、ビニールふくろに入れて冷蔵庫で保存する。



1年目にすること
3 種まき(花だんや畑などにまく)



種をまく場所(床(とこ))を作る。
サクラの種を床にまく。
(1㎡当たり、25gまたは250粒位)
土とわら(草)をかけ、種がかわかないようにする。
秋(9月下旬から10月)にまくと翌春(5月)に芽が出てくる。

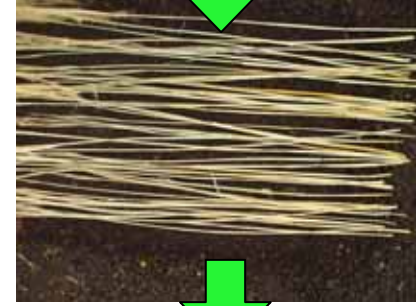
[用意するもの]
スコップ レーキ、板、名前を書く札、肥料とたいひ、ふるい(あみめ6~8mmていど)または売っているかわいた土、わらまたは刈り取った草、なわ、木または鉄のくい、針金
*肥料とたいひ~園芸店などで市販されているもの(種類は問わない)。

床作り作業



土の上に肥料とたいひをまく。
土をスコップで深さ30cmまでたがやす。
土をレーキで細かくする。
大きな石やゴミを取り除く。
細かくなった土を盛り上げ、高さ10~15cmで上が平らになった床を作る。
床のはばと長さは、種をまく量や、床を作る場所(花だんや畑など)によって変える。

種まき



サクラの種を、広さ1平方メートル(1m×1m)当たり、25gまたは250粒を目安にまく(まく粒数は少なくても良い)。
種の上に、種の厚さと同じだけ(4~6mm)の土(ふるいを通した土または買ってきた土)をかける。
板で軽くたたいて平らする。

わらまたは草を、土が見えかくれするていどにし。
床のはしに、くいを打ち込む。

わらが風で飛ばないように、くいにしばったなわを、ワラの上にはりわたす。
なわの両はしをくいにしばる。
針金をU字形に曲げ、なわの上から土にさしこむ。
種の名前を書いた札を床のそばに立てる。
そのまま芽が出るまで(春まで)待つ。

2年目（種をまいた翌年）にすること

- 1 草取り～6月から9月
- 2 ほりとり、仮植え～10月

前年の秋にまいた種は、春（5月）に芽が出てくる。
 （1㎡当たり250粒まいた時に芽が出て苗木に育てるのは、
 150本位が目安）
 草取りをしながら苗木を大きく育て、秋にほりとり斜めに植える
 （仮植え）。（150本仮植えするのに必要な広さは1㎡位）
 仮植えする場所は、水がたまらない場所を選ぶこと。
 仮植えした苗木は春までそのままにしておくこと。

[用意するもの]
 てぶくろ（軍手）、バケツ、スコップ、エプロン



<秋に種をまいた翌年のサクラ>



5月に土の中から出てきたサクラの芽



5月、芽が出て、すぐに葉を広げたサクラの苗



7月、生育中のサクラの苗木



畑に生えてきた草

草取り

床（サクラの種をまいた場所）には、6月から9月までたくさんの草が生える。
 草をそのままにしておくと、苗木が草にうまってしまい育たなくなるので、草をぬく。
 ぬいた草はバケツに入れて捨てる。



秋に葉の色がかわってきた苗木

秋のほりとり

秋になって、サクラの葉の色が変わってきたら苗木をほりとる。

仮植え

深さ30cm、長さ1m50cm位のみぞをほり、ほりとった苗木を重ねないように、みぞの中に根を入れて斜めに植える。
 根は、土からでないようにする。



みぞをほる作業



みぞの中に根を入れて斜めに植える（仮植え）

苗木の植えかえ

植えかえの時に、苗木の根がかんそうすると枯れてしまう。仮植えの場所からほりとった苗木は、すぐにビニールのふくろに入れて植えかえるときまでかんそうしないようにする。
 広さ1平方メートル(1m×1m)当たり16本または25本の苗木を床に植える。
 植える作業は苗木の葉が開く前に行うこと。(葉が開いた苗木を植えると、すぐにしおれてしまう。)根が見えないように植える。

草取り(2年目と同じ)

苗木を植えた床に生えてきた草をぬきとり捨てる。

秋のほりとり、仮植え(2年目と同じ)

秋になって、サクラの葉が緑色から変わってきたら苗木をほりとり。ほりとった苗木はみぞの中に根を入れて、斜めに植える。



葉の開く前に植える



葉が開いてから植えてしおれた苗木



秋に葉の色がかわってきた苗木



秋にほりとった苗木を斜めに植える(仮植え)

3年目(種をまいた翌々年)にすること

- 1 床づくり、植えかえ～4月(葉が開く前)
- 2 草取り ～6月から9月
- 3 ほりとり、仮植え～10月

苗木を植える場所(床(とこ))を作る。
 2年目の秋に150本仮植えした場合、春には、10㎡位の広さの床が必要。
 前の年に仮植えした苗木をほりだし、床に植えかえる。
 草取りをしながら苗木を大きく育て、秋にほりとって斜めに植えかえる(仮植え)。<2年目と同様に>
 仮植えする場所は、水がたまらない場所を選ぶこと。

[用意するもの]

てぶくろ(軍手)、エプロン、スコップ、いしよくこて、レーキ、肥料とたいひ、木の札、バケツ
 *肥料とたいひ～園芸店などで市販されているもの(種類は問わない)。

床作り作業

土の上に肥料とたいひをまく。
 土をスコップで深さ30cmまでたがやす。
 土をレーキで細かくする。
 大きな石やゴミをひろって投げる。
 細くなった土を盛り上げて、高さ10～15cmで上が平らになった床を作る。
 床のはばと長さは、植えかえする苗木の本数によってかえること。



冬をこした仮植え苗木



土を盛り上げて作った床

4年目にすること

目的の場所に植える、又は、さらに畑で大きく育てる

仮植したサクラ苗木をほりだし、目的の場所に植える。
小さい苗木、または大きな苗木をもっと大きくしたい場合は、改めて床を作って植えかえを行う。
床に植えかえた苗木は、前の年（3年目）と同じように草取りをしながら大きく育て、秋には2年目や3年目と同じように仮植する。

目的の場所に植える

森林や校庭など予定地にサクラを植えることができる。
植える時期は、葉が開く前に行くと枯れることが少なく、成長も良好。



さらに畑で大きく育てる



列に植えた大きな苗木

大きく育ってきた苗木を、さらに大きくするときには床に植えかえる。
植えかえるときは、列に並べてたて・横50cmづつはなして植える。
秋には、3年目と同じく冬に苗木が寒さや雪で傷まないように、ほりとり・仮植えを行う。

なぜ 苗木の植えかえをするのか？

苗木を畑（床）に植えたままにしておくと、根が大きくなり伸び過ぎてしまったり、水や養分を吸収する細かい根が根元からはなれてしまいます。このような根の形になった苗木は、目的とする場所に植えても生き残ることがむずかしく枯れてしまいます。

苗木を毎年植えかえすると、苗木は大きくなるとともに、根元に細かい根が多くて健全な根になります。



（写真はシラカンバ苗木）

- 左の苗木：毎年植えかえた苗木
（細かい根が根元近くにある）
- 中の苗木：植えかえしなかった苗木（右のような苗木）の根の先を切り落とした状態（細かい根がなくなっている）
- 右の苗木：植えかえないでそのまま育てた苗木
（根が大きくなり、細かい根は根元から離れている）